

ブドウ「高尾」の早期成園化・安定生産に向けた栽培技術の確立

【研究概要】

特産品種「高尾」を中心に栽培されている東京のブドウ生産では、高樹齡化などの影響で樹勢が低下し、生産量の低下や着色不良果の発生などが問題になっている。これらの諸課題を解決するため、「高尾」の根域制限栽培やコンパクトな樹形の栽培技術開発を行い、早期成園化及び省力的で高品質な安定生産技術について試験を実施した。また、生産者から「高尾」の優良系統の選抜が求められていることから、生産者組織と共同で評価・選抜を行い、東京オリジナル品種としての維持・強化を図ることを目的に試験を実施した。その中で、今年度は下記の3つの成果が得られた。

- (1) 定植4, 5年目の「高尾」根域制限栽培で着果負担を減らすと、定植5年目の樹体生育、果実品質への影響はないものの、収量は慣行より少なくなる。
- (2) 導入経費は、拡大型根域制限、根圏制御栽培ともに地植えと比較して220万円程度高くなる。「高尾」では、定植5年目までの総販売額が導入コストを200万円程度超え、作業時間が比較的少ない、拡大型根域制限と短梢剪定の組み合わせが有望である。
- (3) 優良系統間で、開花期や収穫期に差は無いが、果皮色や一粒重等の果実形質については一定の傾向がみられた。生産者組織の決定として、それぞれの特徴を活用すべく3系統を選抜する。